

令和 7 年 5 月 3 0 日	病 害 虫 発 生 予 報 6 月 号	茨城県病虫害防除所
---------------------	------------------------	-----------

使い慣れた農薬でも、使用前には必ず農薬ラベルを確認しましょう。

～令和 7 年度茨城県農薬危害防止運動が始まります（6/15～9/14）～

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
水稻：縞葉枯病（ヒメトビウンカ）・・・・・・・・・・・・・・・・	1
水稻：ニカメイガ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
【防除所レポート】イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が認められています。・・・・・・	2
○水稻のいもち病の防除について・・・・・・・・・・・・・・・・	3
ナシ：黒星病・・・・・・・・・・・・・・・・	3
ナシ：ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）・・・・・・・・・・	4
【防除所レポート】ナシヒメシンクイの防除適期の予測・・・・・・・・・・	4
果樹共通：果樹カメムシ類・・・・・・・・・・・・・・・・	5
半促成ピーマン：斑点病・・・・・・・・・・・・・・・・	5
夏ネギ：ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ・・・・・・・・・・	6
共通害虫：シロイチモジヨトウ・・・・・・・・・・・・・・・・	7
【その他の病虫害】	
水稻、ナシ、ブドウ、半促成ピーマン、夏ネギ・・・・・・・・・・	8
○サツマイモ基腐病の防除対策（植付期～生育期）・・・・・・・・	9
【防除所レポート】コムギ赤かび病の発生に注意！適期収穫に努めましょう・・・・・・	10
II. 今月の気象予報	11
最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの 「農薬登録情報提供システム」（https://pesticide.maff.go.jp/）で確認することができます。	
詳しくは、茨城県病虫害防除所へお問い合わせ下さい。Tel：0299-45-8200 ホームページでは病虫害・フェロモントラップ・農薬関連情報がご覧いただけます。 https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/	
※病虫害の発生状況や、適切な防除方法は地域により異なる可能性があります。病虫害の防除や 農薬についてのご相談は、お住まいの都道府県にある病虫害防除所等の指導機関にお問い合わせ ください。	



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並	県西地域、県南、 県央の一部地域

[予報の根拠]

- ① 5月中旬現在、県西・県南地域の小麦圃場におけるヒメトビウンカの10回振りすくい取り虫数は平年より少ない（本年値14.1頭、平年値67.2頭）。
- ② 5月に採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫において、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が5%以上の高い値であったのは、県西・県南地域11地点中2地点であった（次ページ防除所レポート 参照）。なお、1月下旬～2月に採集した越冬世代幼虫では、県西・県南・県央地域で保毒虫率の高い地点を認めている（令和7年3月19日発表 病害虫速報No.14 参照）。
- ③ 5月30日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛日は、平年並と予測される（次ページ防除所レポート 参照）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 近年、育苗箱施用を行っても発病が多かった圃場では、ヒメトビウンカを対象とした薬剤の本田散布を行う。防除適期については次ページの防除所レポートを参照する。
- ② 育苗箱施用と本田散布の体系防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤を選択する。
- ③ 無人航空機や乗用管理機等による本田散布を行うことができない場合は、投げ込み型の殺虫剤による本田防除を行う。
- ④ イネ縞葉枯病抵抗性品種を作付けしている水田であっても、ヒメトビウンカの増殖場所となるため、本病の多発生地域では防除を行う。

2. ニカメイガ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月第5半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は、龍ヶ崎市で平年より多く、水戸市で平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 例年発生が目立つ水田では、第一世代幼虫を対象とした薬剤防除を実施する。

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が認められています。

水田でのヒメトビウンカの適期防除を行いましょう。

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であり、多発するとイネが減収します。発病すると治療はできないため、ヒメトビウンカを対象とした防除が重要です。

本年の10回振りすくい取り虫数は平年より少ないものの、保毒虫率は引き続き高い地点が認められていることから、イネ縞葉枯病対策のため、適期に防除を行いましょう。

[現在の状況]

- ① 5月に採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫において、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が5%以上の高い値であったのは、県西・県南地域11地点中2地点であった(表1)。
- ② 5月30日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛日は、平年並と予測される(表2)。なお、今後の気温の推移によっては、表に記載した産卵最盛日および防除適期は数日程度変わる可能性がある。

表1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の年次推移

地域	調査地点	RSV保毒虫率(%) ¹⁾				
		令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	本年 ²⁾
県西	古河市 水海	3.7	5.3	2.7	1.1	2.0
	結城市 結城	6.3	7.4	3.2	7.4	1.1
	下妻市 高道祖	5.9	2.7	1.1	4.3	1.6
	常総市 三坂町	5.9	3.2	1.1	3.7	2.7
	筑西市 二木成	9.0	3.2	5.9	5.9	5.3
	坂東市 矢作	— ³⁾	—	2.1	—	5.9
	桜川市 加茂部	5.3	5.3	5.9	4.3	2.1
	原方	7.4	2.1	4.8	3.7	3.2
	八千代町 高崎	8.5	6.4	5.3	13.8	4.3
県南	つくば市 大形	5.9	3.7	3.2	2.7	2.1
	つくばみらい市 市野深	6.9	1.6	5.3	3.2	4.3

1)簡易ELISA法により検定した。

2)採集日：令和7年5月13、14、15、16、22日、検定実施日：5月26日。

サンプル数：各地点94～188頭。

3) —：未調査

表2 水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の予測産卵最盛日および予測防除適期*

アメダス地点		古河	下館	下妻	つくば	土浦	笠間	水戸
予測産卵最盛期	本年	6/6	6/11	6/11	6/12	6/9	6/17	6/15
	平年値	6/8	6/13	6/11	6/13	6/11	6/17	6/15
予測防除適期	本年	6/6-13	6/11-18	6/11-18	6/12-19	6/9-16	6/17-24	6/15-22

※有効積算温度から予測した産卵最盛日(5月30日現在)。防除適期は、予測した産卵最盛日から7日後までの間。

5 月下旬現在、調査圃場の置苗での本病の発生は認めていない。

気温 20～25℃で、弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間濡れるような条件のとき、一般的に 6 月の高温多湿、7～8 月の低温多雨は発生を助長する。

- ① 置苗は本病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して適切に処分する。
- ② 常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では、特に発生に注意する。
- ③ 本病は例年 6 月下旬から発生する。粒剤による本田防除の適期は初発前～初発時なので、適期を逃さずに防除する。
- ④ 粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。

防除所 HP にて、6 月より BLASTAM（アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム）による葉いもちの感染好適日の出現状況を随時掲載する予定ですのでご参照ください。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5 月下旬現在、果実における発病率（本年値 0.3%、平年値 0.3%）、発生地点率（本年値 25%、平年値 27%）ともに平年並である。
- ② 5 月下旬現在、県予察圃（笠間市）における発病果率（本年値 15.8%、平年値 1.5%）は平年より高い。
- ③ 気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は多いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した葉および果実等は二次伝染源となるため見つけ次第除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後にを行うとより効果的である。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

(ナシ 続き)

2. ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、第一世代成虫の発生時期は、越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から、平年並と予測される。
- ② 5月第4半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は、笠間市では平年よりやや多い～多く、小美玉市、筑西市、土浦市では平年よりやや多く、かすみがうら市では平年並～やや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後、第二世代幼虫が発生するため、次の防除所レポートを参考に適期防除に努める。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

防除所レポート【ナシヒメシンクイの防除適期の予測】

- ① ナシヒメシンクイ第二世代幼虫を対象とした防除適期は、第一世代成虫の誘殺数がピークに達した日の7～9日後である。
- ② 各地点の第二世代幼虫の予測防除適期は、おおむね平年並である（表）。
- ③ 表中のかすみがうら市、土浦市、筑西市（下館地域）については、今後、病虫害防除所ホームページで誘殺状況を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第二世代幼虫の予測防除適期

地点	第二世代幼虫の予測防除適期 ¹⁾		
笠間市	6月19日	～	6月24日
小美玉市	6月18日	～	6月23日
石岡市	6月14日	～	6月19日
かすみがうら市	6月14日	～	6月19日
土浦市	6月18日	～	6月22日
筑西市（下館地域）	6月15日	～	6月19日
筑西市（関城地域）	6月15日	～	6月19日

1) 第一世代成虫の誘殺最盛期を基に予測した（5月27日現在）。

果樹共通

1. 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月第4半旬までのかすみがうら市の果樹園内に設置した予察灯への誘殺数（本年値 33 頭、平年値 154 頭）は過去 11 年中 7 番目に多く、平年並である。
- ② 5月第4半旬までの笠間市の果樹園内に設置した予察灯への誘殺数（本年値 20 頭、平年値 214 頭）は過去 11 年中 8 番目に多く、平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多目的防災網（目合い 6mm または 9mm クロス等のネット）はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。
- ② カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になり、果樹園に飛来する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ③ カメムシ類の発生時期や発生量は地域や圃場によって異なるため、定期的に圃場全体を観察し、早期発見と薬剤による初期防除を徹底する。

半促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病度※（本年値 2.0、平年値 3.2）は過去 11 年中 3 番目に高く、平年よりやや高い。発生地点率（本年値 50%、平年値 40%）は平年並である。
※発病度：葉の病斑面積をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤感受性の低下を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

夏ネギ

1. ネギハモグリバエ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、被害度※（本年値 13.0、平年値 6.5）は平年よりやや高い～高く、発生地点率（本年値 88%、平年値 81%）は平年並である。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用して丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
② 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

2. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、被害度※（本年値 32.6、平年値 27.6）は平年よりやや高く、芯葉の被害株率（本年値 77.0%、平年値 73.0%）は平年並である。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 気温の上昇に伴って増殖が速くなるので、発生圃場では速やかに防除を実施する。
② 雑草にも寄生するため、圃場周辺の除草を徹底する。
③ 薬剤散布は、必要に応じて展着剤を加用して丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
④ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

1. シロイチモジヨトウ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
早い	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月第5半旬までのフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い。
- ② 5月下旬現在、夏ネギの一部圃場で発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

- ① 中齢以降になると薬剤の防除効果が劣るので、圃場をよく観察し、集団で生息する若齢幼虫の早期発見に努め、防除を徹底する。
- ② 結球葉菜類では、幼虫が結球内に食入するとその後の防除が困難になるため、結球始期前後の防除を徹底する。
- ③ 施設栽培では、出入口も含めてハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(令和5年2月24日発表 病虫害発生予報3月号 p.3-4 防除所レポート参照)

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネミズゾウムシ	発生量：やや多い	5 月下旬現在、平年よりやや多い発生である。イネの初期生育が遅い水田、育苗箱施用剤を使用していない水田では発生に注意する。
	イネドロオイムシ	発生時期：やや早い 発生量：平年並	5 月下旬現在、平年並の発生である。曇雨天続くと発生が助長されるので注意する。幼虫の発生が多く、食害が目立つ場合は防除を行う。
ナシ	アブラムシ類	発生量：やや多い	5 月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
ブドウ	灰色かび病	発生量：平年並	5 月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病		
	ハダニ類	発生量：－	5 月下旬現在、一部圃場で発生が認められている。圃場をよく観察し、発生を認めた場合は防除を行う。
半促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並	5 月下旬現在、平年並の発生である。
	アザミウマ類		
	ハダニ類		
夏ネギ	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	5 月下旬現在、平年並の発生である。向こう 1 か月の降水量は多いと予想され、発生を助長する条件である。
	黒斑病(葉枯病を含む)	発生量：平年並	5 月下旬現在、平年並の発生である。

サツマイモ基腐病の防除対策（植付期～生育期）

〔防除対策〕

1. 作業にあたっての注意

- ・発生地域と行き来のあったコンテナ等は、洗浄、消毒してから使用し、残さや土を圃場に持ち込まない。
- ・作業する圃場ごとに、農機具や長靴等についた土は良く落とし、水で良く洗浄する。
※コンテナや農機具、長靴等の洗浄は、圃場の近くでは行わない

2. 健全苗を確保するために

- ・来歴が不明な切苗等は絶対に使用しない。
- ・多発生地域からは、切苗等を持ち込まない。
- ・生産者間で切苗等の譲渡等は行わない。

〔採苗時の対応〕

- ・採苗時のハサミはこまめに消毒を行う。苗は地際から5 cm以上の位置で切る。
- ・採苗した苗は、採苗後速やかに苗消毒を行う。
- ・苗消毒用の薬液は、使用当日に調製し、登録の内容に従って浸漬処理を行う。

〔購入苗への対応〕

- ・切苗を購入する時は、基腐病対策が徹底されていることを販売店に確認し、未消毒の場合は購入後に必ず苗消毒を行う。

3. 侵入に備えた対策

- ・育苗終了後は、苗床の残さを育苗ハウスから持ち出して適切に処分する。苗床は、耕うんして残さの分解を促したのち、梅雨明け後の高温期に太陽熱土壤消毒を行う。
- ・排水の悪い圃場は、本病が侵入した際に発病しやすい傾向があるため、明きょ設置や耕盤破砕、枕畝の途中に排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。
- ・圃場ごとに植え付けた苗の苗床の場所や採苗日、ウイルスフリー苗などの購入先を記録する。

4. 早期発見のために

- ・定植後、少なくとも2か月間は、2週間に1回程度、地上部の葉の変色、株元の茎の黒変などの異常が無いか確認する。

※ 本病が疑われる症状を見つけた場合は、抜き取り等を行わず、速やかに各地域の農業改良普及センターまでご連絡ください。

茨城県総合防除計画におけるサツマイモ基腐病の遵守事項

茨城県では、全国的に発生しているサツマイモ基腐病について、すべての農業者（家庭菜園を含む）の皆様にご守っていただくルール（遵守事項）を定めました（令和5年4月1日に施行された改正植物防疫法に基づくものです）。

○遵守すべき事項

- ・県が実施するまん延防止のための調査に協力する。
- ・本病の発生を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株を抜き取り、圃場（苗床を含む）外に持ち出す。
- ・本病発生圃場では、2年間、サツマイモを作付けしない（関係機関の指導の下、栽培管理する場合を除く）。
- ・本病発生圃場から種イモを採取しない。
- ・本病発生圃場では、発生の拡大が無いことを確認する。

コムギ赤かび病の発生に注意！適期収穫に努めましょう

[現在の状況]

赤かび病の原因となる赤かび病菌の子のう胞子は、気温が高く、曇雨天の日に飛散する。本年は、5月6日～5月13日にかけて県内の多くの地点で赤かび病菌の胞子飛散好適条件が連続して出現した。また、5月17日以降も多く出現しており、本病の感染が拡大しているおそれがある。

表 赤かび病菌の子のう胞子飛散好適条件の出現状況

	アメダス地点	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26
県北	日立	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●				●	●	●
	常陸大宮					●	●	●	●				●	●	●	●		●	●	●	●	●
県央	水戸	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●		●	●	●	●	●
	笠間	●	●		●	●	●	●	●				●	●	●	●				●	●	●
鹿行	鉾田	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●				●	●	●
県南	土浦	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●						●	●	●
	龍ヶ崎	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●						●	●	●
	つくば	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●						●	●	●
県西	下館	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●				●	●	●
	下妻	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●						●	●	●
	古河	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●			●	●	●	●

●：子のう胞子の飛散好適日

(日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上で、降雨日とその翌日)

[収穫期以降の対策]

- ① 収穫が遅れると、被害粒から健全粒へと感染が広がるおそれがあるため、適期収穫に努める。また、圃場内で倒伏した部分は多湿条件となり、感染が広がっているおそれがあるため、その部分は刈り分けて処分する。
- ② 収穫後は時間をおかずに適切な乾燥・調製を行う。
- ③ コムギでは、グレーダーによる粒厚選別(2.4mm以上)等は被害粒の除去に有効である。

Ⅱ．今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 5 月 31 日から 6 月 30 日)

気象庁 (5 月 29 日 発表)

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)＞

[確率]	要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
	気温	関東甲信全域	20	30	50
	降水量	関東甲信全域	30	30	40
	日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

＜1 週目の予報＞ 5 月 31 日 (土曜日) から 6 月 6 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

＜2 週目の予報＞ 6 月 7 日 (土曜日) から 6 月 13 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率 40%

＜3 週目から 4 週目の予報＞ 6 月 14 日 (土曜日) から 6 月 27 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散（ドリフト）しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類（FRAC コード、IRAC コード）の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。